

■「効果の見えるダム事業」

香川県 香東川総合開発事業(栴川ダム)

香川県土木部河川砂防課 **あべ たかお 阿部 孝雄**



香東川(こうとうがわ)は、その源を香川県木田郡三木町の高仙山(標高627.1m)に発し、途中、栴川(かばがわ)、内場川(ないばがわ)、西谷川(にしたにがわ)を合流し、高松市市街地西部で瀬戸内海に注ぐ流路延長33.0km、流域面積113.2km²の2級河川です。

香東川では、1市5村が大きな被害を受けた昭和13年9月の大洪水をはじめとする洪水対策として、昭和28年に内場(ないば)ダムが完成し、昭和46年度から河道の整備が行われてきました。

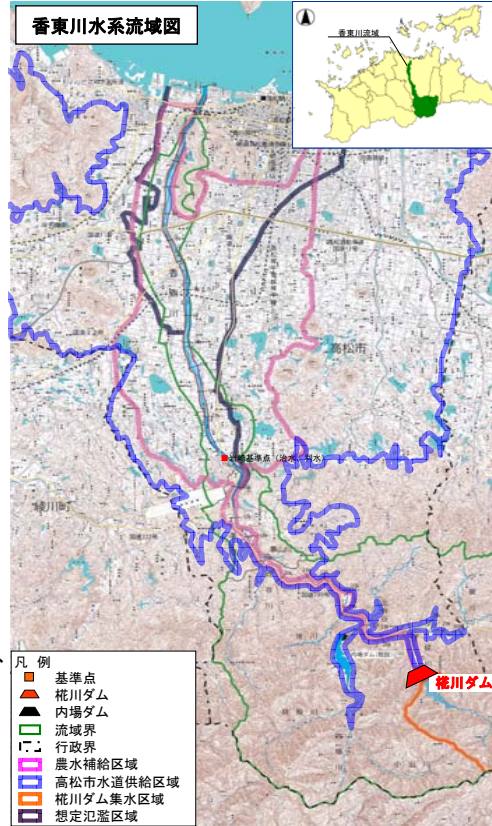
しかし、その後も昭和54年9月の台風16号、昭和62年10月の台風19号、平成16年10月の台風23号により度重なる被害が発生しており抜本的な治水対策が望まれています。

また、香東川は古くから、県都高松市のかんがい用水、水道用水の水源として利用されており、古くはため池の築造に始まり、昭和28年には多目的ダムである内場ダムが完成しました。さらに、昭和49年には、県内に吉野川から導水する香川用水が通水され、利水面の整備が行われてきました。

しかし、平成6年の大渇水では、高松市の水道は7月15日から1か月間もの長い期間にわたり1日19時間の断水が続けられ、市民生活と経済活動に大きな打撃を受けました。

その後も、平成17年、20年には、早明浦(さめうら)ダムの貯水率(利水確保容量に対する貯水量の割合)が0%となるなど、深刻な水不足に見舞われていることから、新たな水源の確保が強く求められています。

このように、治水はもとより、利水においても早急な対策が望まれており、栴川(かばがわ)ダムの建設には、大きな期待が寄せられており、県では更なる事業の推進に努め、地域住民の安全・安心の確保に向け、早期のダム完成を目指してまいります。



完成予想イメージ



ダムサイト付近空中写真(H23.8撮影)

「談話室」(香川県高松市)

高松市長 **おおにし ひでと 大西 秀人**



高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深いかかわりの中で、県都として、また、四国の中枢管理都市として発展を続けてきました。

これまでに、大正、昭和、平成を通じ、8回にわたる合併により現在市域の面積は、375.14km²となり、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する人口約42万人の中核市です。

市内の観光スポットとしては、堀に瀬戸内海の海水を引きこんでいる日本3大水城の一つである史跡高松城跡の玉藻公園を始め、市街地東部に位置する源平合戦の古戦場で有名な屋島、海上4kmには、2010年に開催された「瀬戸内国際芸術祭」の会場にもなった女木(めぎ)島(鬼が島)・男木(おぎ)島・大島、市南部に塩江温泉郷などがあります。



日本三大水城 史跡高松城跡玉藻公園



屋島

気候は、典型的な瀬戸内海型気候に属し、年平均気温16℃前後と温暖であり、年間降水量も1,100mm前後と少なく、これまで幾度となく渇水に悩まされてきました。年間降水量の50%以上は、梅雨期と台風期に集中し、その他の月は極端に少なく、乾燥した晴天の日が続くのが特徴です。

このため、市内を流れる河川は、日頃は水量も少なく穏やかですが、昨年は、相次ぐ台風による大雨の影響により、市内を流れる2級河川である香東川などが甚大な被害を受けたところであり、早期の復旧が待たれているところです。

また、平成6年の大渇水以降、毎年のように渇水に見舞われ、市民生活や社会経済活動への多大な影響はもとより、農作物等にも甚大な被害をもたらしてきた状況から、利水開発としての新しい水資源の確保も急務になっています。

このようなことから、栴川ダム建設事業は、本市における治水・利水の両面で不可欠な事業であり、早期に完成することを切望するとともに、関係機関の更なるご支援をお願いいたします。